

# 50周年記念誌

昭和45年～令和2年  
(1970～2020)



塩釜地区消防事務組合 設立50周年記念誌

いつも地域の  
暮らしのそばに



塩釜地区消防事務組合  
SHIOGAMA DISTRICT FIRE FIGHTING UNION partial-affairs-association



塩釜地区消防事務組合  
SHIOGAMA DISTRICT FIRE FIGHTING UNION partial-affairs-association

# 50周年記念誌

昭和45年～令和2年  
(1970～2020)

いつも地域の  
暮らしのそばに



塩釜地区消防事務組合  
SHIOGAMA DISTRICT FIRE FIGHTING UNION partial-affairs-association

## 発刊のことは

このたび、塩釜地区消防事務組合が設立50周年という大きな節目の年を迎えました。

塩釜地区消防事務組合は、昭和45年4月に職員80名、消防車両9台、消防艇1隻をもって発足しました。以来、組合消防として組織体制、施設整備等を含む消防力の強化を進め、昭和、平成そして令和へと時代をたどるなかにあつて、塩竈、多賀城、松島、七ヶ浜そして利府の二市三町の住民の皆様をはじめ、関係各位のたゆまぬご努力、そして深い郷土愛に支えられながら、半世紀を経て1消防本部・5消防署・1出張所・1事務局、職員220名を有する消防事務組合に発展してまいりました。この間、住民の生命、身体及び財産を守るため、本組合と一体となつてご尽力いただいております二市三町及び関係各位に対し、衷心より感謝を申し上げます。

今日、技術の革新、生活様式や価値観の多様

化、少子高齢化、そして地球規模での環境問題など社会情勢は大きく変動しております。特に近年は大規模地震をはじめ、地球温暖化の影響と見られる大型台風や局地的集中豪雨などによる水災害や土砂崩れなどへの対応が増加し、また、日本の社会全体が高齢化の一途をたどるなかで、救急需要が右肩上がりに増加するなど、消防の担う役割が今後もさらに複雑化・多様化すると考えられます。それゆえ、住民の消防に対する期待はより大きなものとなり、消防に課せられた使命は一層重きを加えるものと考えております。

こうした中、平成23年に発生した東日本大震災においては、私たちが今までに経験したことのない未曾有の被害を受けましたが、国や県のご支援、全国の関係者皆様のご協力のお陰をもちまして、9年間の時を経て、本組合や二市三



塩釜地区消防事務組合管理者

塩竈市長

佐藤 光樹

Yonki Sato

町が順調に復旧・復興が進んでいることに対し心から感謝を申し上げます。

本組合はこれからも、多くの先人と皆様のたゆまぬ努力により、幾多の災害や試練を乗り越え、組合の発展に限りない英知と情熱を傾けてこられた伝統を引き継ぎ、誰もが安全で安心して暮らすことができるまちづくりに取り組んでまいります。

このたび、先人の築き上げてきたこれまでの歩みを記念誌として発刊しました。この設立50周年を契機として、住民の皆様が、本組合に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

今後とも、関係各位の格別なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご協力のことばを賜りますようお願い申し上げます。

## 発刊によせて

令和という新しい時代を迎え、いつ何時、我々の生命、財産を脅かすような大規模災害が起こってもおかしくない状況ですが、この50年間の経験をもとに、関係機関、地域住民が一致団結し、消防防災体制の確立になお一層のご努力とご精進を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、記念誌発刊にあたりご尽力を賜りました関係者の皆様に心から御礼を申し上げますとともに、塩釜地区消防事務組合の今後益々の発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



塩釜地区消防事務組合副管理者  
七ヶ浜町長 寺澤 薫  
Kaoru Terasawa

このたび塩釜地区消防事務組合がめでたく設立50周年の節目を迎え、記念誌が発刊されますことを心よりお慶び申し上げます。

塩釜地区消防事務組合は、昭和45年の発足以来、二市三町の発展とともに複雑・多様化する火災や事故、増加する救急需要に対応するべく消防防災体制の整備を進め、今や本地域住民の生命、財産を守る重要な機関として広く認識されております。

この50年間に本地域では、昭和53年の宮城県沖地震、昭和61年の8・5豪雨など度重なる大規模自然災害に見舞われ、特に平成23年3月11日の東日本大震災では大津波により未曾有の被害を受けましたが、このような大規模災害や火災発生時において、消防署員が常に最前線に立ち懸命に励む姿には、地域住民から厚い信頼と大きな期待が寄せられております。



塩釜地区消防事務組合副管理者  
多賀城市長 菊地 健次郎  
Kenjiro Xikuchi

塩釜地区消防事務組合発足から50周年という節目を迎えますことは、ご同慶の至りであり、心からお祝い申し上げます。

## 発刊によせて

本組合は、昭和45年4月に二市三町の消防事務を担うため設立されましたが、その後の環境変化や塩釜地区の各種事務の効率化を目的として、介護や障害者の認定審査会の事務、塩釜地区環境組合の解散に伴う事務の継承など多岐にわたる事業を行う一部事務組合として発展してきたところです。その役割が増えましても、二市三町で手を取り合い一丸となって、地域の発展に寄与してまいりました。これも関係各位、地域住民の皆様のご努力とご協力があったからこそ成したものであり、改めて心から敬意を表す次第です。

50周年を迎える年に多賀城消防署の新築工事が行われていることに対しましても、多賀城市民を代表して感謝を申し上げます。

近年は、災害が激甚化し日本各地で大きな被害が生じております。また、人口に対する高齢者割合が増えていることもあり、本組合の役割は、ますます重要となつてきております。今後とも、塩釜地区の安全で安心な地域が維持されますよう、皆様とともになお一層の努力と精進を重ねてまいれることをお誓い申し上げます、発刊の挨拶といたします。

## 発刊によせて

令和という新しい時代を迎え、いつ何時、我々の生命、財産を脅かすような大規模災害が起こってもおかしくない状況ですが、この50年間の経験をもとに、関係機関、地域住民が一致団結し、消防防災体制の確立になお一層のご努力とご精進を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、記念誌発刊にあたりご尽力を賜りました関係者の皆様に心から御礼を申し上げますとともに、塩釜地区消防事務組合の今後益々の発展をご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。



塩釜地区消防事務組合副管理者  
利府町長 熊谷 大  
Yutaka Xunagai

塩釜地区消防事務組合が設立50周年を迎えられましたこと、心からお祝いを申し上げます。

昭和45年の設立以来、これまで塩釜地区二市三町相互に関連する複数の事務を共同処理するため、日々御尽力いただいておりますことに対し、改めて敬意と感謝を表する次第であります。

利府町では、昭和46年に利府出張所が開設され、昭和63年には新庁舎が完成し分署に、平成17年には利府分署が利府消防署に昇格となりました。東日本大震災の際には、本町にあるグラウンディ21宮城県総合運動公園が臨時のヘリポートとなり、全国の緊急消防援助隊、世界各国から来た援助隊の野営地としての受入れを行いました。

これまで、火災をはじめ自然が猛威を振るう災害などの対応に当たられる皆様に対し、多くの方々が勇気付けられたことと思えます。どうかこの輝かしい50周年記念を契機として、今後とも、その任務の重大なことを再認識され、我が圏域の発展と住民生活の安定のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、組合の発展に御尽力を賜りました歴代の職員の皆様々に心から感謝申し上げますとともに、併せて本誌編さんにあたり御尽力を賜りました方々に深く感謝申し上げます、お祝いのことばといたします。

## 発刊によせて

塩釜地区消防事務組合が昭和45年4月に発足して以来50周年を迎え、このたび記念誌が発刊されることに対し、心よりお祝い申し上げます。

発足当初から現在に至るまで、二市三町住民の生命財産を守るため、消防組織の拡充、施設の整備や資機材の充足等を図り、日夜消防活動にご尽力されてこられた方々に対し、心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

近年、自然災害が猛威を振るい、昨年10月に発生した令和元年東日本台風では、本県を含む1都12県で大雨特別警報が発表される記録的な大雨となり、管内においても甚大な被害を受けました。

自然災害の激甚化が叫ばれる中、風水害においては全国各地で毎年のように被害が発生しており、危機管理体制の更なる充実が求められております。

このような現状を十分認識し、「災害に強いまちづくり」を推進するとともに、地域住民が安全で安心して暮らせるよう、消防行政と各種団体、住民が連携して総合的な防災体制の充実強化に努めて参ります。

結びに、本記念誌作成にあたり、ご尽力頂きました関係各位の皆様々に感謝申し上げますとともに、塩釜地区消防事務組合のさらなるご発展を祈念いたしまして、発刊によせる言葉といたします。



塩釜地区消防事務組合副管理者  
松島町長 櫻井 公一  
Kouichi Sakurai

# 発刊を祝して

塩釜地区消防事務組合が、昭和45年に組合消防としての第一歩を踏み出してから、50周年を迎えられましたこと誠にめでたくございます。

歴史と文化に彩られた塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町そして利府町の二市三町にわたる約19万住民の生命や財産を火災などの災害から守り、また被害を最小限にとどめるため、職員の皆様がこれら二市三町の消防団と協働し日夜任務に精励されておりますことに改めて心から敬意を表します。

近年は、特に大規模地震や大型台風等による自然災害が増加していることから、消防機関に寄せる地域住民の期待はますます高まりをみせております。どうか、塩釜地区消防事務組合職員の皆様には、これまでの50年にわたる歳月のなかで幾多の災害や困難を乗り越えて



■塩釜地区消防事務組合議会  
議長 小野 幸男  
Yukihiro Ono

培ってきた経験と技術力そして職員の結束力を発揮していただき、引き続き地域住民がこの地域に誇りと愛着を持ち、安全で安心して生活できるまちづくりの実現に向けて邁進されますことをご期待いたします。

議会といたしましても、住民の皆様のご生命と財産を守り、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進し、塩釜地区消防事務組合の消防力が充実されますよう努めてまいります所存でございます。

結びにあたり、この50周年を契機に塩釜地区消防事務組合のさらなるご発展と職員皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、発刊を祝してのことばとします。

# 設立50周年 記念誌の 発刊によせて

このたび、塩釜地区消防事務組合が昭和45年4月に設立して以来、50年の記念すべき年を迎えられたことに心から慶ぶとともに、先人や関係者の方々のご尽力に敬意を表し感謝申し上げます。

顧みますと、設立当初は職員80人、消防車両9台、消防艇1隻を配置し業務を開始した組合消防が、現在では職員220人、消防車両44台、消防艇1隻に加え大型後方支援車や大規模風水害対策車を擁し、昭和、平成そして令和へ移行行くこの半世紀において当組合の消防力は飛躍的に向上しました。

それは単に数の増加だけではなく、特別救助隊員、救急救命士さらには予防技術資格者等を順次養成するとともに、女性消防職員の活躍推進、他機関への職員派遣や各種教育を計画的に実施し、火災・救急・救助等の警戒体制及び火災予防体制の強化を図ってまいりました。その間、平成11年には介護認定審査業務を行うため介護保険課を設置し、平成18年には障害支援区分審査業務の開始により名称を現在の介護審査課に改めま



■塩釜地区消防事務組合  
消防長 柴 正浩  
Masahiro Shiba

した。加えて平成26年には、塩釜地区環境組合が当組合へ再編統合されるかたちで環境課を設置し、し尿処理場や火葬場の管理運営に関する業務を開始することとなり、広域事務の一層の効率化を図るため、消防行政とともに福祉と環境行政の一翼を担うより一層地域に密着した一部事務組合として発展してまいりました。

現在のこの組合体制につきましては、幾多の災害を乗り越え、先人たちが住民の生命、身体、財産を守るために英知をしほり困難を克服して、関係各位の深いご理解と絶大なご支援とともに築き上げられたものであり、心から敬意を表する次第であります。

さらに、二市三町、各消防団、防災安全協会、婦人防火クラブ及び幼年消防クラブなどの皆様方のご協力とご尽力によりまして、火災予防や災害による被害の軽減が図られてきたことは誠に心強く思うところでございます。

近年では、火災や台風による風水害など従来型の災害に加え、大規模地震や気候変動の影響で、今後全国各地で風水害や土砂災害等の頻発、激甚化が懸念さ

れ、さらには外国からの武力攻撃事態など、災害の複雑多様化により消防行政の需要はますます高まっております。これに対し我々は、これら消防力を最大限に発揮し、今後も当組合の歴史のなかで培われた各種災害等への対応から得た教訓を基に、住民皆様の暮らしに寄り添い、「安全で安心して暮らせるまちづくり」の実現に向け、さらには東日本大震災で受けた全国各地からの多大な応援や支援に対する恩返しのため、全職員がより一層結束を高め、関係機関と更なる強固な連携を図り、崇高な職務に励んでまいります所存です。

結びに、このたび組合設立50周年を記念し、これまで築き上げられてきたものを改めて振り返り、後世に残すことで、新時代令和における当組合の発展を祈念するたため記念誌を発刊いたしました。この軌跡を胸に刻みながら、関係者皆さまのこれまでのご尽力に対しまして改めて感謝を申し上げますとともに、当組合に対する皆様方からのより一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。発刊によせるあいさつとさせていただきます。



## 目次

■ ごあいさつ	
「発刊のことば」	塩釜地区消防事務組合管理者 塩竈市長 佐藤 光樹
「発刊によせて」	塩釜地区消防事務組合副管理者 多賀城市長 菊地 健次郎
「発刊によせて」	塩釜地区消防事務組合副管理者 松島町長 櫻井 公一
「発刊によせて」	塩釜地区消防事務組合副管理者 七ヶ浜町長 寺澤 薫
「発刊によせて」	塩釜地区消防事務組合副管理者 利府町長 熊谷 大
「発刊を祝して」	塩釜地区消防事務組合議会 議長 小野 幸男
「設立50周年記念誌の発刊によせて」	塩釜地区消防事務組合 消防長 柴 正浩
■ 第1編 塩釜地区消防事務組合の概要	01
■ 第2編 組合のあゆみ	
第1章 沿革(年表)	07
第2章 歴代消防長・正副議長	17
第3章 半世紀の足跡	19
■ 第3編 あの日、この時	
昭和53年6月 宮城県沖地震	31
昭和58年4月 大規模林野火災	33
昭和61年8月 8・5台風10号豪雨	35
平成23年3月 東日本大震災	37
平成7年11月 石油コンビナートにおける 「固形硫黄出荷設備粉塵爆発事故」	41
平成24年10月 平成24年度緊急消防援助隊 北海道東北ブロック合同訓練	42
寄稿文	43
■ 第4編 「記憶」と「未来」	
OB座談会	47
これからの組合	54
■ 資料編	55
■ 編集後記	71



「いつも地域の暮らしのそばに」

# 地域に寄り添う 五つの輪

「塩竈市」「多賀城市」  
「松島町」「七ヶ浜町」  
「利府町」五つの地域を  
一つにつなげ、  
住民に寄り添った  
業務の遂行

昭和45年の組合設立以来、組合職員は常に地域住民の皆さまが、安全で安心して暮らすことができるまちづくりの実現に努めてまいりました。設立当時と比べると、五市町における生活環境は大きく変化し、それに合わせて組合の業務内容も拡大、拡充が図られました。また、これまでの組合の歩み

を振り返ると、大きな災害や困難にぶつかるともありませんでしたが、その時々々の住民の皆さまや関係機関のご協力と職員の尽力によって乗り越えてこられたのだと改めて実感しております。そして、本年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される年でもあります。組合を構成する五市町の5つの輪、組合主要業務の5つの輪、そしてオリンピックの5つの輪。まさに50周年を迎えるにふさわしい年であります。

本書は設立50周年を記念し、これまでの組合の歩みができるだけ後世に伝えるために発刊するものです。記事の中には、過去の災害なども多く取り上げております。発災当時を思い出し、ご気分が悪くなられる方がいらっしゃいましたら、記録を伝えるという趣旨をご理解いただき、何とぞご容赦いただけますよう、お願い申し上げます。

守る、支える、思いやる。

塩釜地区消防事務組合が  
担う五つの役割

- 1 消防事務……地域住民の暮らしを  
火災や災害から守る
- 2 介護認定審査会の設置及び運営、  
障害者を支援する審査会の設置及  
び運営に関する事務……地域の社  
会的弱者を支える
- 3 液化石油ガスの保安の確保及び取  
引の適正化に関する事務、火薬類  
取締法に基づく事務……地域住民  
を危険から守る

4 し尿処理施設の設置及び管理運営  
に関する事務……地域の衛生環境  
を守る

5 火葬場の設置及び管理運営に関す  
る事務……地域住民を悼む、思い  
やる

※P.02七つの事務項目を五つにまとめております。

